

羽田沖浅場でのワカメの自然発生

ワカメは、北海道から九州までの日本各地に分布していますが、羽田空港周辺海域でも自生していることが当協会の調査で確認されていきました。しかし、今回は複数の株からなるかなり大きな群落を確認することができました。場所は羽田空港 C 滑走路の浅場で、ワカメがゆらゆらと波に揺られている様子がわかります（図 1）。

そのうちの一株を採取し、標本作製しました（図 2）。この株は全長 106cm の若い藻体です。まだ 1 月なので基部の「めかぶ」と呼ばれる孢子葉が未発達ですが、4 月～5 月になれば太く成長して孢子を放出します（図 3）。この孢子が海底の石や木の杭などに着底し、発芽して秋から春にかけて成長します。

ワカメの自生には孢子の付着基盤が重要です。今回採取したワカメは、2 年前の 10 月に投入した土嚢を付着基盤としていました。これまで確認した付着基盤は、石、木杭などで、付着基盤が良ければ自然に繁茂するようです。

ワカメは、食材としては勿論、海中では魚介類の餌となるだけではなく、稚仔のかくれ場としても利用されます。また、海水中のリンや窒素を取り込みながら成長するため、海水をきれいにする効果もあります。



図 1 確認したワカメ群落
(R3 年 1 月 19 日撮影)



図 3 H18 年 3 月 14 日に採取した標本
全長 3.63m。「めかぶ」が発達している（当協会展示室）



図 2 作成した標本
(R3 年 1 月 19 日)